特別版

できる® Windows 7

Windows XP Mode（モード）編

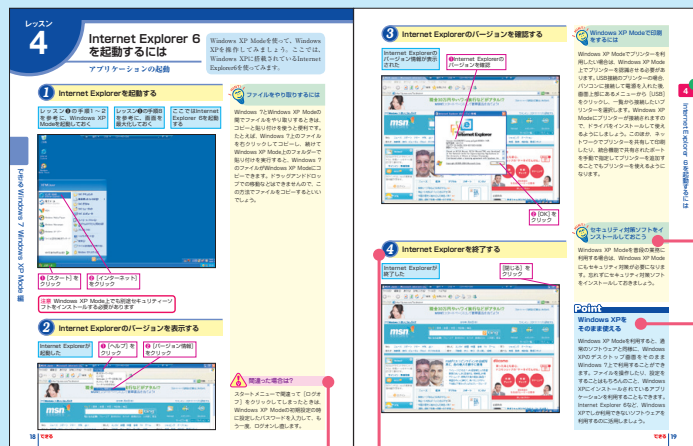
清水理史 & できるシリーズ編集部

比べてください新紙面！ 大きな画面 オールカラー解説

Windows 7でXPを使う方法を解説！
今までのソフトも利用できる！

※1：当社調べ　※2：大手書店チェーン調べ

インプレスジャパン

本書の読み方

●用語の使い方

本文中では、「Microsoft® Windows® 7」のことを「Windows 7」または「Windows」、「Microsoft® Windows Vista® 」のことを「Windows Vista」または「Windows」、「Microsoft® Windows® XP」のことを「Windows XP」または「Windows」と記述しています。また、「Microsoft® Windows® Internet Explorer® 8」のことを「Internet Explorer」､「Internet Explorer® 6」のことを「Internet Explorer 6」､「Microsoft® Office Word 2000」のことを「Word 2000」、「Microsoft® Windows® XP Mode」のことを「Windows XP Mode」と記述しています。また、本文中で使用している用語は、基本的に実際の画面に表示される名称に則っています。

●本書の前提

本書では、「Windows 7 Professional」がインストールされているパソコンで、インターネットに常時接続されている環境を前提に画面を再現しています。

まえがき

「業務の効率化」、「コストダウン」、「エコ」など、現在、企業はさまざまな経営課題に直面しています。特に中小の現場では、古くなったITシステムの効率の低さ、頻発するトラブルによるコストの増加が大きな課題となりつつあります。このような状況の中、古いシステムをそのまま使い続けるか、それとも新しく登場したWindows 7環境に移行するのかは、経営者やIT担当者にとって大きな悩みと言えるでしょう。

本書は、このような古いパソコンから新しいパソコンへと移行する際の課題となることが多いOSの互換性を解決する方法を解説した小冊子です。「新しいパソコンに買い換えたいが、Windows XPでしか動作しないアプリケーションがある」といった場合でも、本書で紹介するWindows 7の新機能「Windows XP Mode」によって、これまでのWindows XP環境で使っていたアプリケーションをそのまま新しい環境でも利用することができます。

本書によって、中小規模の企業ユーザーのみなさんが、現在抱えているIT関連の課題を解決し、さらにパソコンを業務に役立てていただければ幸いです。

2010年02月　清水理史

できる Windows 7 Windows XP Mode編

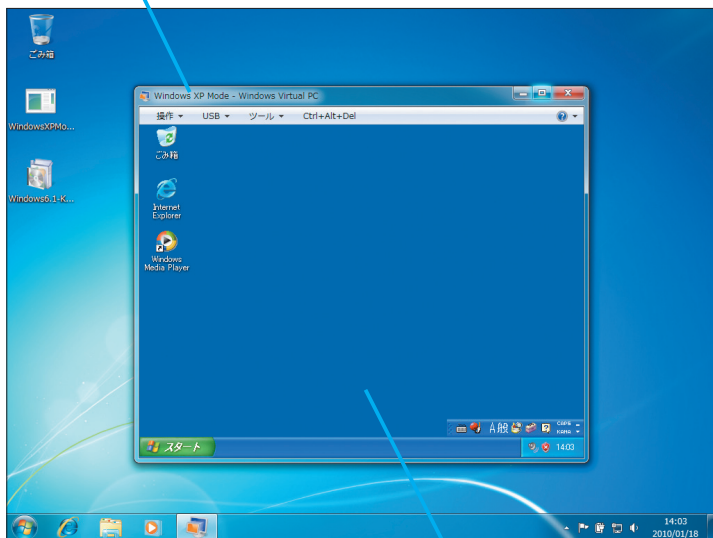
レッスン
1

Windows XP Modeとは

Windows XP Modeの概要

Windows XPでしか動作しないソフトウェアをWindows 7上でも利用できるのが「Windows XP Mode」です。どのような機能で、何ができるのかを見てみましょう。

Windows XP Modeってなに？

「Windows XP Mode」は、Windows 7に搭載されている仮想化技術を利用した機能です。パソコンのハードウェアの機能をソフトウェアによって仮想的に実現することで、Windows 7上で、Windows XPを動作させることができます。Windows 7の中に、仮想的なパソコンがもう1台あり、そこでWindows XPが動作していると考えるといいでしょう。

◆Windows XP Mode

Windows 7上で、Windows XPを動作させることができる

HINT! Windows XPを快適に使えるの？

Windows XP Modeで動作するWindows XPは、Windows 7のプログラムとして実行されます。このため、パソコンに直接Windows XPをインストールした場合に比べると、動作速度が劣る場合もあります。ただし、最近のパソコンは高性能なCPUや大量のメモリを搭載しているため、ビジネスソフトなどを動作させるには十分な速度で実行することができます。

Windows XP Modeのメリット

Windows XP Modeは、仮想的とは言え、Windows XPそのものが動作する環境となります。このため、Windows 7では動作しない古いソフトウェアも、Windows XP Modeで動作させることができます。メリットとして、Windows 7対応にする際の費用がかからないことや、メーカーの都合でWindows 7への対応が期待できないソフトウェアをそのまま利用できることなどがあげられます。

Internet Explorer 6のように、Windows 7では動作しないソフトウェアを利用することができる

Windows XP Modeを利用するには

Windows XP ModeはWindows 7のProfessional以上のエディションで利用可能な機能となっています。また、利用しているパソコンに仮想化機能に対応したCPUが搭載されている必要があります。

●Windows XP Modeを利用するための条件

Windows 7のエディション	Professional、Enterprise、Ultimate

●推奨ハードウェア環境

メモリ	システムメモリへ1GB RAMの追加
ハードディスク	15GB以上のハードディスク空き容量
CPU	Intel VT、AMD-Vに対応したCPU (BIOSの設定で有効にする必要がある)

周辺機器は使えるの？

Windows XP Modeで動作するWindows XPからは、パソコン本体に搭載されている周辺機器の一部を利用できます。たとえば、CD/DVDドライブを使ってソフトウェアをインストールしたり、ネットワーク機能を使ってインターネットを利用することもできます。また、USBメモリーなどのUSB機器を利用することもできます。ただし、すべての機器が利用できるわけではありません。パソコン内部に増設するカードや古い機器などは利用できません。

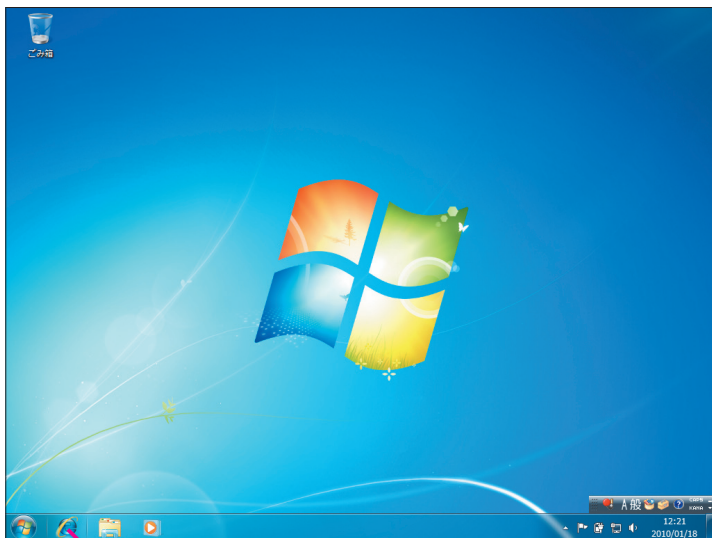
Point
Windows XP Modeで古いソフトウェアの互換性も安心

特定の業務向けの特殊なソフトウェア、かつて自社向けに作成してもらったオリジナルの業務ソフトウェアなど、ソフトウェアの中にはWindows XPでないと動作しないものが少なからず存在します。このようなソフトウェアをWindows 7でも使えるようにできるのが、Windows XP Modeです。これまで、Windows XP用のソフトウェアがあるために、OSやパソコンを入れ替えることができなかった場合でも、Windows XP Modeの搭載で高い互換性を備えたWindows 7なら安心して環境を移行することができます。

レッスン
2 Windows XP Modeを導入するには

Windows XP Modeのインストール

Windows XP Modeを使うための準備をしましょう。Windows XP Modeに必要な2つのファイルをインターネットからダウンロードしてインストールします。

Webブラウザーを起動する

[Internet Explorer]をクリック

Windows Virtual PCのホームページを表示する

Internet Explorerが起動した

Internet Explorerの画面を最大化しておく

▼Windows Virtual PCのホームページ
http://www.microsoft.com/japan/windows/virtual-pc/

❶上のURLを入力　❷Enterキーを押す

HINT! 標準では利用できない

Windows XP Modeは、Windows 7に標準では搭載されていません。仮想的なパソコン環境を実現するためのWindows Virtual PCと、Windows XP環境が保存されているWindows XP Modeの2つのファイルをダウンロードしてインストールしましょう。

HINT! 本体に付属されたDVD-ROMからもインストールできる

ここではWindows Virtual PCのホームページから、WIndows XP Modeをダウンロードしていますが、本体に付属されたDVD-ROMからインストールすることもできます。Windows 7のWindows XP Mode対象エディション搭載パソコンの中には、購入時にWindows XP Modeがプリインストールされていたり、インストールメディアが添付されている製品があります。

HINT! どこからダウンロードするの？

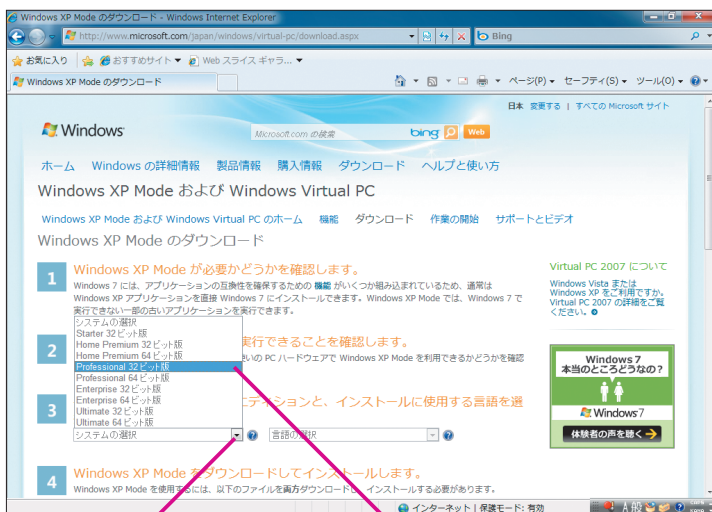
Windows XP Modeはマイクロソフトのサイトから無償でダウンロードすることができます。手順2のホームページのアドレスからアクセスしてダウンロードしましょう。

3 Windows XP とWindows Virtual PCのダウンロードを開始する

Windows Virtual PCのホームページが表示された

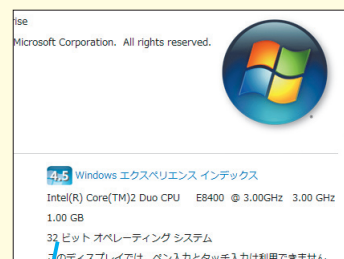
❶［Windows XP ModeとWindows Virtual PCを今すぐ入手］をクリック

4 使用しているWindows 7のエディションを選択する

［Windows XP Modeのダウンロード］の画面が表示された

❶ここをクリック

❷［Professional 32ビット版］をクリック

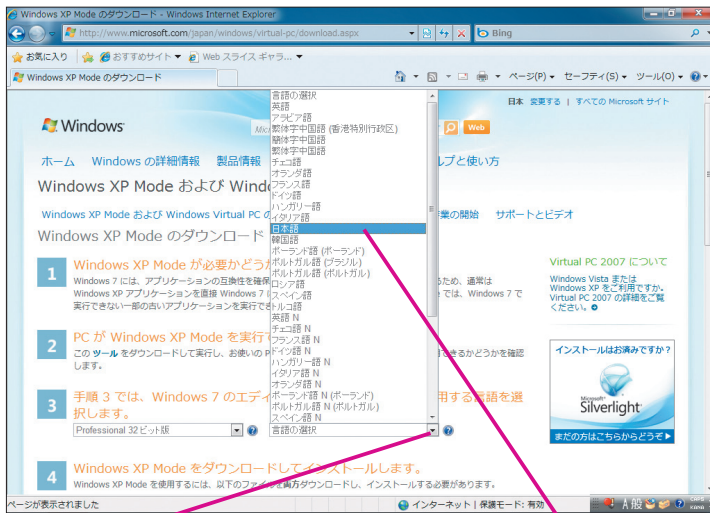
32ビット版と64ビット版がある

Windows XP Modeをインストールするためのソフトウェアには32ビット版と64ビット版の2種類があります。パソコンにインストールされているWindows 7に合わせて適切な方をダウンロードしましょう。利用中のWindows 7が32ビット版か、64ビット版なのかは、コントロールパネルの「システムとセキュリティ」から「システム」を選ぶことで確認できます。なお、32ビット版と64ビット版ともに、実際に起動する仮想環境のWindows XPは、32ビット版となります。

32ビット版か64ビット版かを確認することができる

間違った場合は?

手順4で選択したエディションがWindows XP Modeの使用条件を満たしていない場合、ファイルをダウンロードできません。利用しているWindows 7のエディションが使用条件を満たしていることを確認して、適切なエディションを選び直しましょう。

次のページに続く

5 言語を選択する

❶ここをクリック

❷[日本語]をクリック

6 Windows XP Modeをダウンロードする

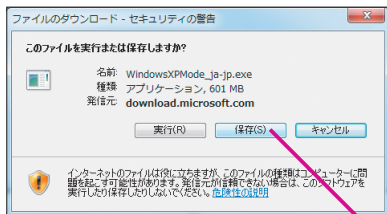
ダウンロードのリンクが表示された

[Windows XP Mode]をクリック

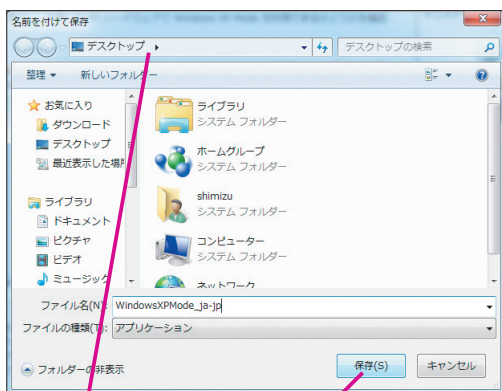
2つのファイルをダウンロードする

Windows XP ModeはWindows XP環境が保存されているWindows XP ModeとWindows Virtual PCの2つのファイルで提供されています。どちらか一方が欠けても利用できませんので、手順6に表示されている2つのボタンを順番にクリックして、必ず両方のファイルをダウンロードしましょう。

セキュリティの内容を確認する

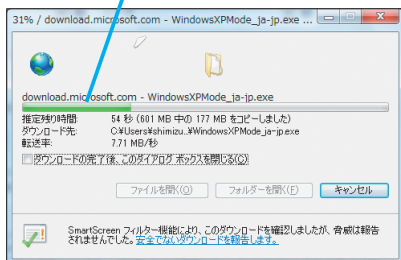
［セキュリティの警告］ダイアログボックスが表示された

［保存］をクリック

ファイルの保存先を選択する

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示された

❶保存先を指定　❷［保存］をクリック

9 ファイルのダウンロードを待つ

ダウンロードの進捗状況が表示された

ダウンロードが完了するまでしばらく待つ

HDDの空き容量に注意

Windows XP Modeはファイルサイズが大きくなっています。保存先を選択するときは、空き容量に余裕がある場所を選びましょう。

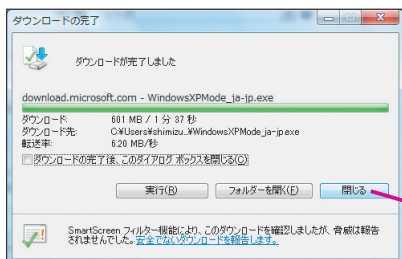
間違った場合は?

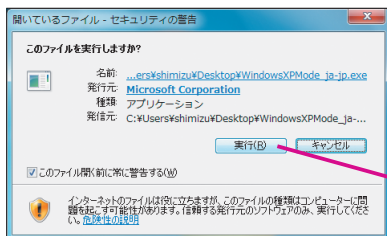
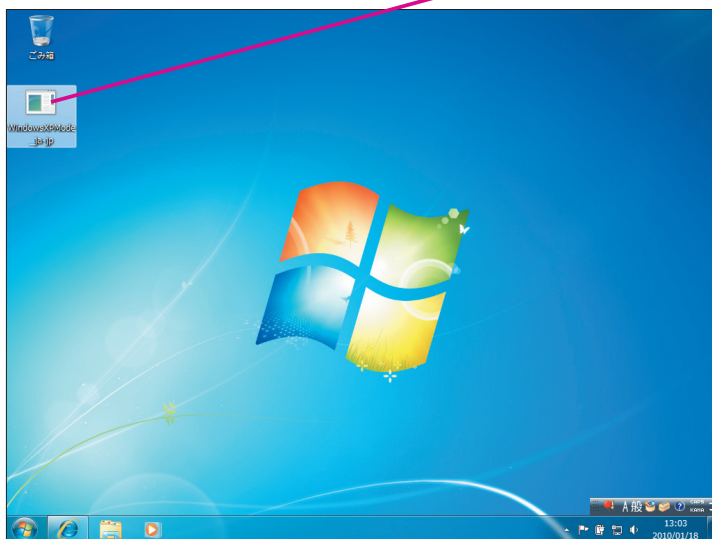
手順7で間違って［キャンセル］をクリックしてしまったときは、手順6の画面で、もう一度、ファイルのダウンロードをやり直します。

ダウンロードには時間がかかる

Windows XP Modeは500～600MBほどもある大容量のファイルとなっています。回線環境によっては時間がかかることもありますので、時間に余裕があるときにダウンロードするといいでしょう。

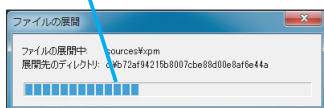
次のページに続く

10 ダウンロードが完了した

11 インストーラーを起動する

指定した保存先にインストーラーのアイコンが表示された

❶インストーラーのアイコンをダブルクリック

12 ファイルが展開されるのを待つ

進捗状況が表示された

しばらく待つ

まとめてダウンロードしてからインストールしてもいい

ここではファイルをダウンロードするごとに1つずつインストールを実行していますが、2つのファイルをまとめてインストールしてもかまいません。手順6で両方のボタンをクリックし、2つのファイルを同時にダウンロードしてから、後でインストールすることもできます。

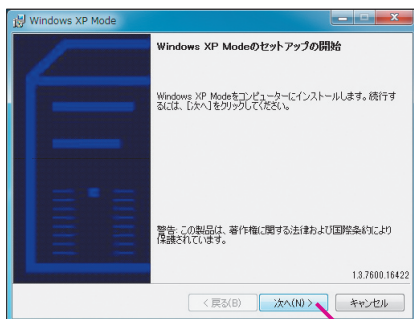
展開に時間がかかる

Windows XP Modeのファイルはインストール時にサイズの大きなファイルを展開します。このため、インストールはすぐに完了せず、しばらく時間がかかります。

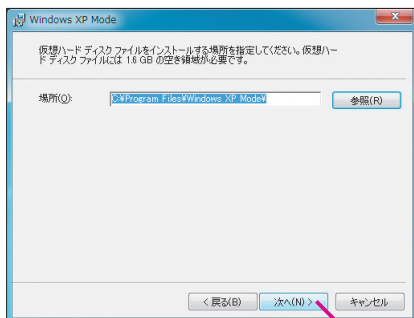
間違った場合は?

手順11で［キャンセル］をクリックしてしまうとインストールが実行されません。もう一度、ファイルをダブルクリックしてインストールをやり直しましょう。

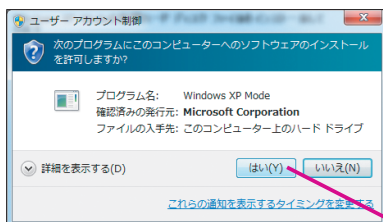
13 Windows XP Modeのセットアップを開始する

Windows XP Modeのセットアップ画面が表示された

[次へ]をクリック

14 Windows XP Modeの保存先を指定する

ここでは［Program Files］フォルダを保存先に指定する

[次へ]をクリック

15 コンピューターへの変更を許可する

［ユーザーアカウント制御］画面が表示された

[はい]をクリック

HINT! どちらのファイルからインストールしてもかまわない

Windows XP Modeの実行に必要な2つのファイルは、どちらからインストールしてもかまいません。ここではWindows XP Modeを先にインストールしていますが、もう一つのWindows Virtual PCをインストールしてからWindows XP Modeをインストールしても問題ありません。

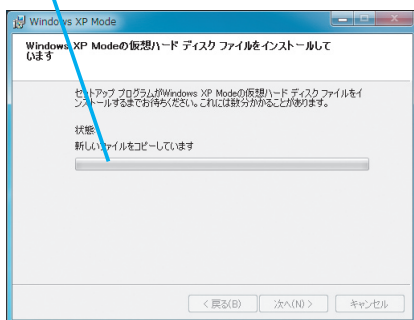
HINT! 保存先を変更することもできる

手順14はWindows XP Modeで利用するWindows XPのファイル（仮想ディスクファイル）をどこに保存するかという設定です。通常は標準設定のままで問題ありませんが、Cドライブの空き容量が少ないなどという場合は、別のドライブに保存先を変更することなどもできます。

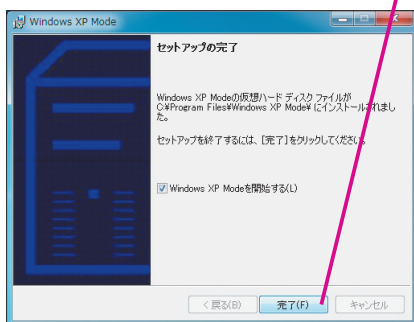
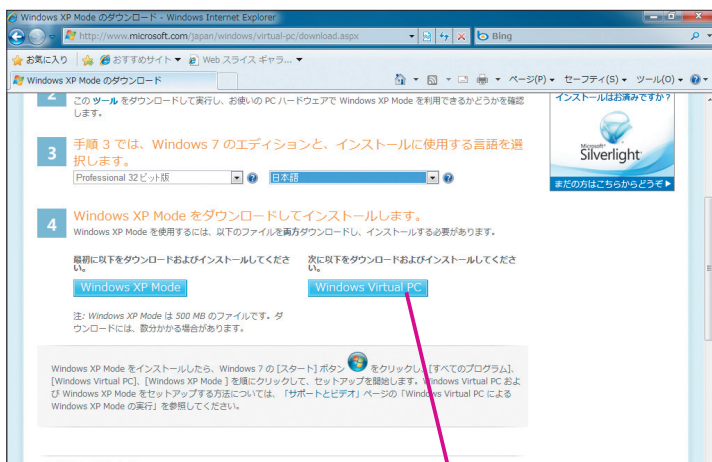
次のページに続く

16 Windows XP Modeが インストールされるのを待つ

進捗状況が表示された

しばらく待つ

17 Windows XP Modeのセットアップを終了する

Windows XP Modeのセットアップが完了した

[完了]をクリック

18 Windows Virtual PCをダウンロードする

[Windows Virtual PC]をクリック

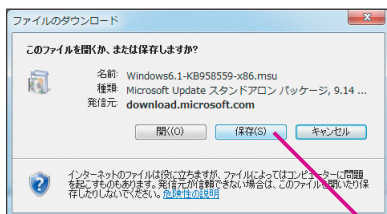
Windows Virtual PCってなに？

Windows Virtual PCは、Windows 7上に仮想的なパソコン環境を用意するためのソフトウェアです。パソコンの動作に必要なCPUやメモリ、周辺機器などのハードウェアをソフトウェアで仮想的に用意する環境と考えるとわかりやすいでしょう。

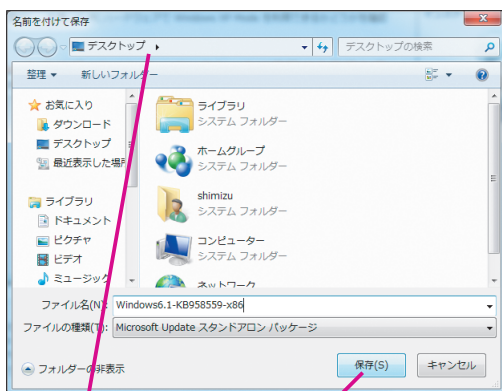
間違った場合は?

手順18で間違って、もう一度、Windows XP Modeをクリックしてしまったときは、ダウンロード画面で[キャンセル]をクリックし、もう一度、Windows Virtual PCをダウンロードし直しましょう。

19 ファイルを開くか保存するか選択する

[ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示された

[保存]をクリック

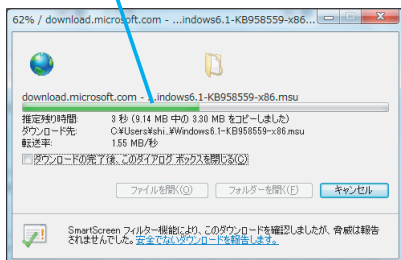
20 ファイルの保存先を選択する

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示された

❶保存先を指定

❷[保存]をクリック

21 ファイルのダウンロードが完了するのを待つ

ダウンロードの進捗状況が表示された

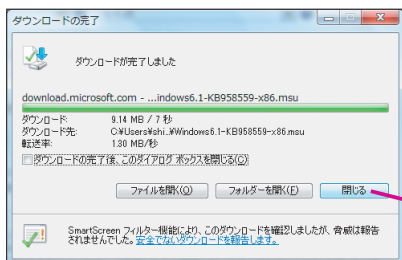
ダウンロードが完了するまでしばらく待つ

直接実行しても良い

Windows Virtual PCをすぐにインストールしたいときは、手順19で［開く］をクリックすることで、ダウンロード後、自動的にインストールを実行できます。Windows Virtual PCを他のパソコンにもインストールしたいときはファイルを保存しておくと便利ですが、1台にしかインストールしない場合は直接実行してもかまいません。

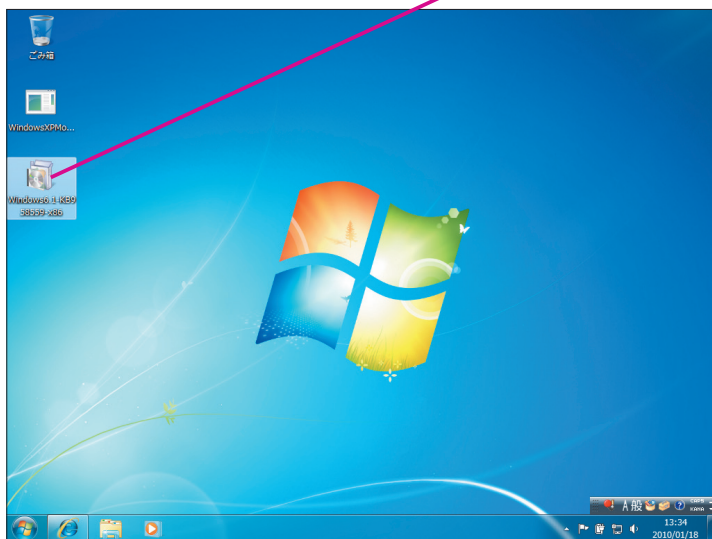
別の場所に保存してもいい

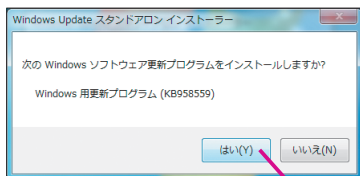
ここではダウンロードしたファイルをすぐに実行できるようにするために［デスクトップ］に保存しています。もしも、別のフォルダーに保存したいときは、手順20で［ダウンロード］など任意のフォルダーを指定してダウンロードしましょう。

次のページに続く

22 ダウンロードが完了した

23 インストーラーを起動する

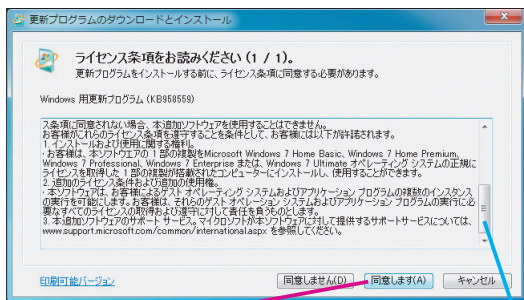
指定した保存先にインストーラーのアイコンが表示された

❶インストーラーのアイコンをダブルクリック

24 インストールするかどうかを選択する

[Windows Updateスタンドアロンインストーラー]ダイアログボックスが表示された

更新プログラムとして提供される

Windows Virtual PCは、通常のソフトウェアとしてではなく、Windows Updateの更新プログラムとして提供されます。このため、通常のソフトウェアとは、ダウンロードしたファイル名やインストール方法が若干異なります。

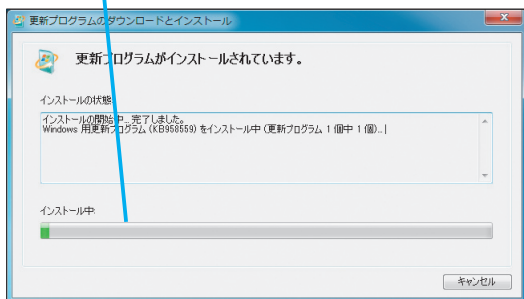
25 ライセンス条項を確認する

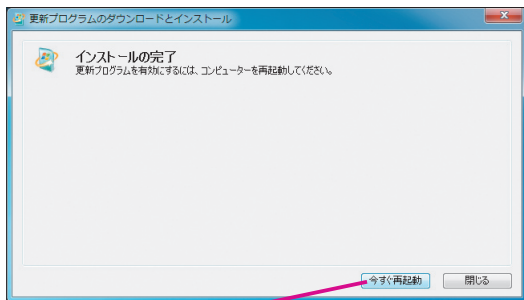
ライセンス条項が表示された

[同意します] をクリック

ここを下にドラッグしてスクロールして、ライセンス条項を読んでおく

26 更新プログラムがインストールされるのを待つ

進捗状況が表示された

しばらく待つ

27 パソコンを再起動する

インストールが完了した

[今すぐ再起動] をクリック

パソコンが再起動される

間違った場合は？

手順25でライセンス条項に同意しないとインストールを続行できません。[同意しません] や [キャンセル] をクリックしてしまったときは、もう一度、手順23から操作してインストールし直しましょう。

Windows Updateでは自動的に更新されないの？

Windows Virtual PCは更新プログラムとして提供されていますが、Windows Updateから入手したり、自動更新によって自動的にインストールされることはありません。必要な場合にのみインストールする特別なプログラムとなりますので、手動でダウンロードしてインストールする必要があります。

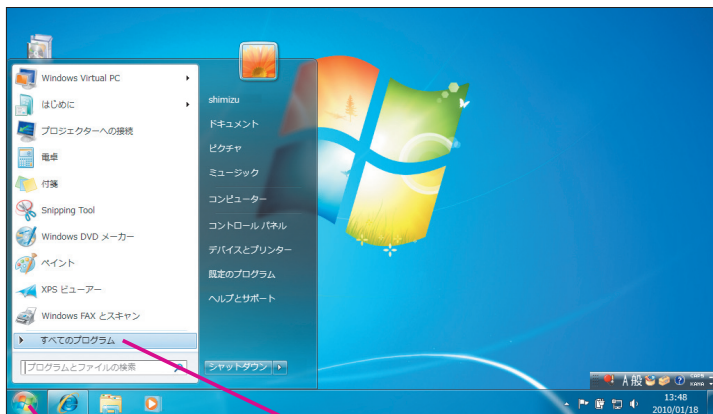
Point
Windows XP Modeをインストールしよう

Windows XP Modeを使用するには、このレッスンで紹介したように、仮想化ソフトウェアの「Windows Virtual PC」とWindows XPがインストールされた仮想ディスクイメージ「Windows XP Mode」の2つのファイルをダウンロードしてインストールしておきましょう。もちろん、無償で利用することができますので、インストールしても費用などは一切発生しません。

Windows XP Modeを起動するには

Windows XP Modeのセットアップ、起動

Windows XP Modeを使ってみましょう。スタートメニューからWindows XP Modeを選ぶと、初期設定後、Windows 7上でWindows XPが起動します。

1 アプリケーションの一覧を表示する

❶［スタート］をクリック

❷［すべてのプログラム］にマウスポインターを合わせる

2 Windows XP Modeを起動する

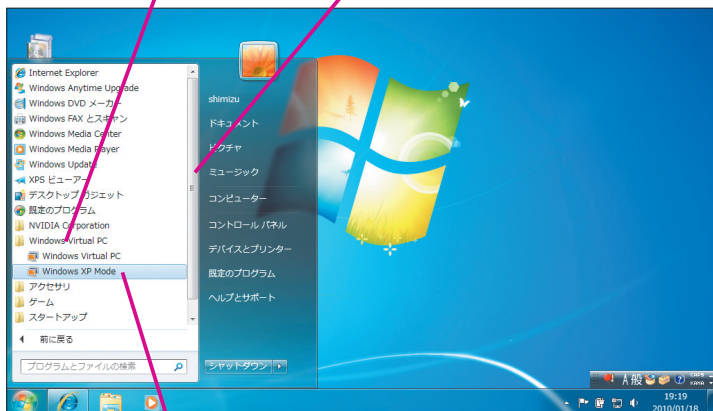
［スタート］メニューの表示が切り替わった

❶ここをドラッグして下にスクロール

❷［Windows Virtual PC］をクリック

❸［Windows XP Mode］をクリック

パソコンが対応していないと利用できない

パソコンに搭載されているCPUが仮想化機能に対応していない場合、起動時に「Windows Virtual PCホストプロセスを開始できません」というエラーが発生します。このような場合は、Windows XP Modeを利用することはできません。仮想化機能に対応したCPUを搭載したパソコンで利用しましょう。

BIOSの設定が必要な場合もある

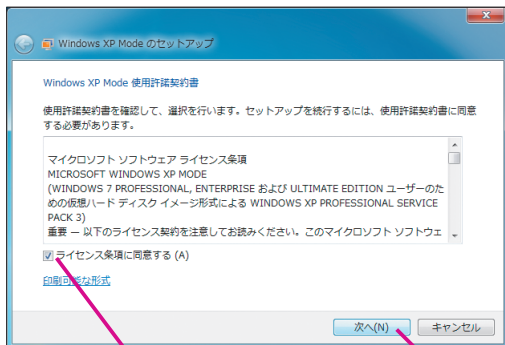
仮想化機能に対応したCPUを搭載したパソコンを利用している場合でも、機能が無効になっている場合はWindows XP Modeを起動できません。「ハードウェア依存の仮想化機能が無効になっています」と表示されたときは、パソコンに付属の取扱説明書などを参考にBIOSで仮想化機能を有効に設定し直しましょう。

間違った場合は？

手順2で［Windows Virtual PC］が表示されないときは、Windows XP ModeやWindows Virtual PCのインストールが完了していない可能性があります。前のレッスンを参考に、インストールし直しましょう。

Windows XP Modeのセットアップを開始する

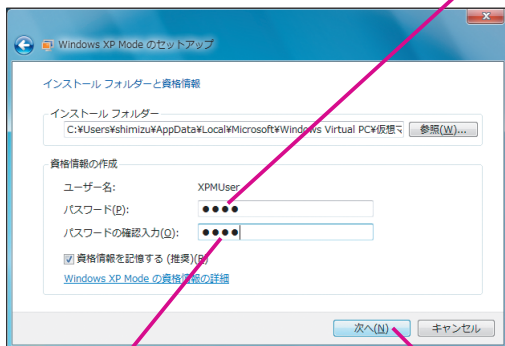
Windows XP Modeのセットアップ画面が表示された

初回起動時のみ、Windows XP Modeのセットアップをする

❶[ライセンス条項に同意する]にチェックマークを付ける

❷[次へ]をクリック

パスワードを入力する

パスワードを設定する画面が表示された

❶[パスワード]に任意のパスワードを入力

❷[パスワードの確認入力]に再度パスワードを入力

❸[次へ]をクリック

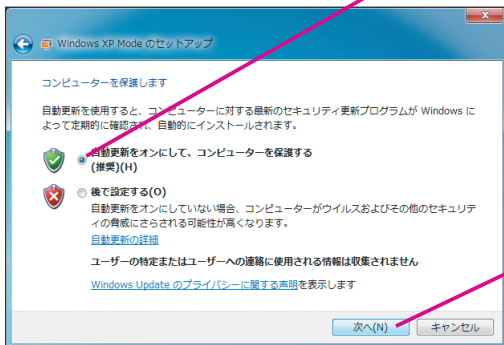
資格情報ってなに？

手順4で表示される資格情報とは、Windows XPを利用するためのユーザー名とパスワードです。ただし、標準では[資格情報を記憶する]にチェックマークが付いているため、実際にWindows XP Modeを利用するときは自動的に入力されますので、特に意識する必要はありません。

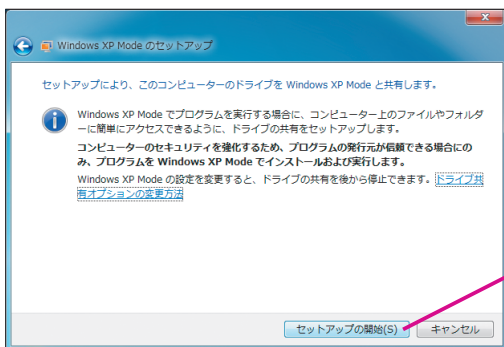
次のページに続く

5 自動更新の設定をする

自動更新の設定に関する画面が表示された

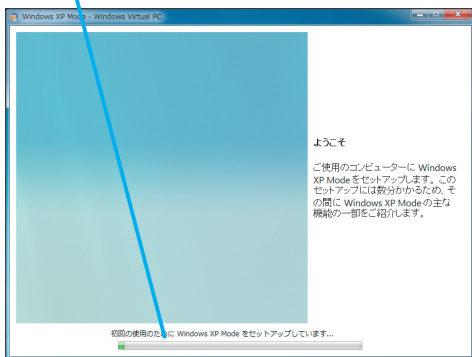
❶[自動更新をオンにして、コンピューターを保護する]をクリック

❷[次へ]をクリック

6 ドライブの共有の設定をする

ドライブの共有のセットアップを行う

[セットアップの開始]をクリック

7 セットアップが完了するのを待つ

進捗状況が表示された

しばらく待つ

HINT! 自動更新を有効にしておこう

Windows XP Modeで動作するWindows XPにも、セキュリティ対策や不具合を修正するための修正プログラムを定期的に適用する必要があります。自動的に更新されるように、自動更新を有効にしておきましょう。

HINT! Windows 7のドライブにもアクセスできる

手順6で行う操作は、Windows XP ModeからWindows 7のドライブを使えるようにする設定です。この設定をすると、Windows XP Modeで［マイコンピュータ］を開くと、［その他］の項目に［xxxx（コンピュータ名）のC］などと記載されたドライブが表示され、Windows 7上に保存されているファイルにWindows XPからアクセスできます。

8 Windows XP Modeが起動した

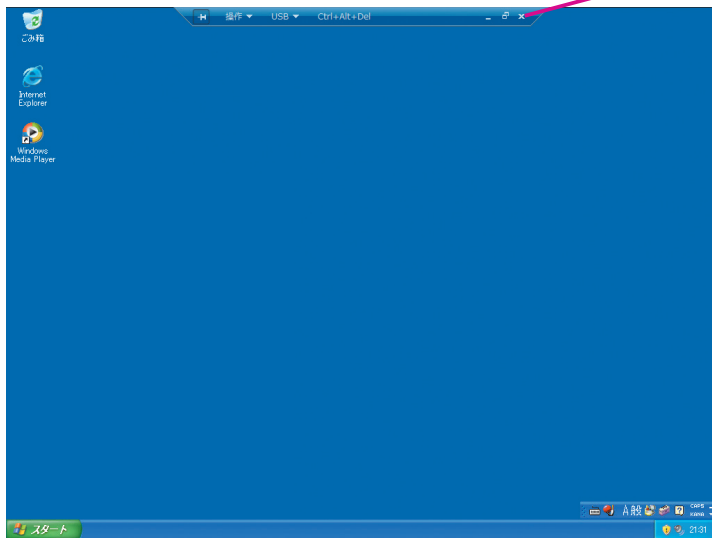
Windows XP Modeが起動し、Windows XPのデスクトップが表示された

[最大化] をクリック

9 Windows XP Modeを一度終了する

Windows XP Modeの画面が最大化された

一度終了して、再度Windows XP Modeを起動する

[閉じる] をクリック

進捗状況が表示された

しばらく待つ

次回起動時からは、手順1、2を行えばよい

ウィンドウ表示でも使える

ここではWindows XP Modeを最大化して利用しましたが、手順8のようなウィンドウ表示のまま使うこともできます。Windows XP用のソフトウェアだけ使いたいときは最大化し、Windows 7のソフトウェアを使いながらWindows XPも使いたいときはウィンドウ表示で利用するといいでしょう。

Windows XP Modeを終了するには

Windows XP Modeを終了したいときはウィンドウ上部または右上の［閉じる］ボタンをクリックします。Windows XPが実行されている仮想マシンが休止状態になり、Windows XP Modeが終了します。次回、Windows XP Modeを起動すると休止状態から復帰しますので、以前と同じ状態から作業できます。なお、Windows XP Modeをシャットダウンしたり、再起動したいときは、スタートメニューから［Windowsセキュリティ］をクリックし、実行したい操作を選びます。

Point

初期設定を済ませよう

Windows XP Modeを利用するには、初期設定が必要になります。設定と言っても、Windows XPのインストール作業のような手間のかかる操作は必要ありません。パスワードの設定や自動更新の設定など、最低限の設定をするだけでWindows XP Modeを利用できます。設定が完了すると、Windows XP Modeの画面が表示されます。Windows XPそのものとなりますので、いろいろと操作してみるといいでしょう。終了するときは上部または右上の閉じるボタンを利用します。Windows XPが休止状態になり、Windows XP Modeが終了します。

レッスン
4

Internet Explorer 6を起動するには

アプリケーションの起動

Windows XP Modeを使って、Windows XPを操作してみましょう。ここでは、Windows XPに搭載されているInternet Explorer 6を使ってみます。

1 Internet Explorerを起動する

レッスン❸の手順1～2を参考に、Windows XP Modeを起動しておく

レッスン❸の手順8を参考に、画面を最大化しておく

ここではInternet Explorer 6を起動する

❶［スタート］をクリック

❷［インターネット］をクリック

注意 Windows XP Mode上でも別途セキュリティ対策ソフトをインストールする必要があります

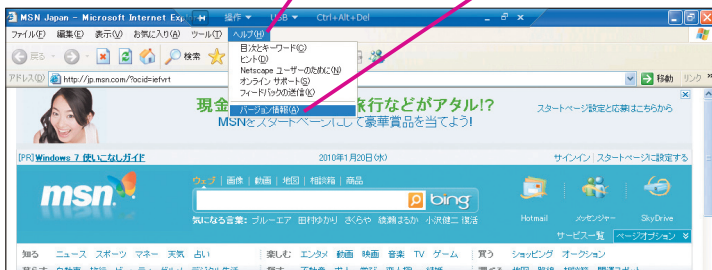
2 Internet Explorerのバージョンを表示する

Internet Explorerが起動した

❶［ヘルプ］をクリック

❷［バージョン情報］をクリック

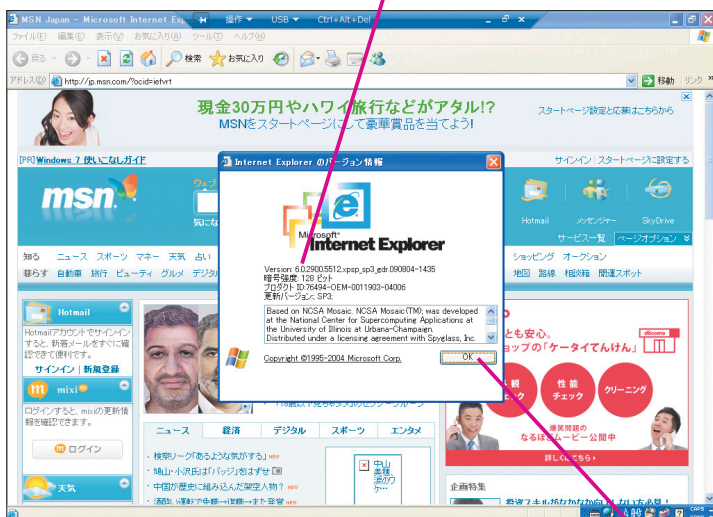
ファイルをやり取りするには

Windows 7とWindows XP Modeの間でファイルをやり取りするときは、コピーと貼り付けを使うと便利です。たとえば、Windows 7上のファイルを右クリックしてコピーし、続けてWindows XP Mode上のフォルダーで貼り付けを実行すると、Windows 7のファイルがWindows XP Modeにコピーできます。ドラッグアンドドロップでの移動などはできませんので、この方法でファイルをコピーするといいでしょう。

間違った場合は？

スタートメニューで間違って［ログオフ］をクリックしてしまったときは、Windows XP Modeの初期設定の時に設定したパスワードを入力して、もう一度、ログオンし直します。

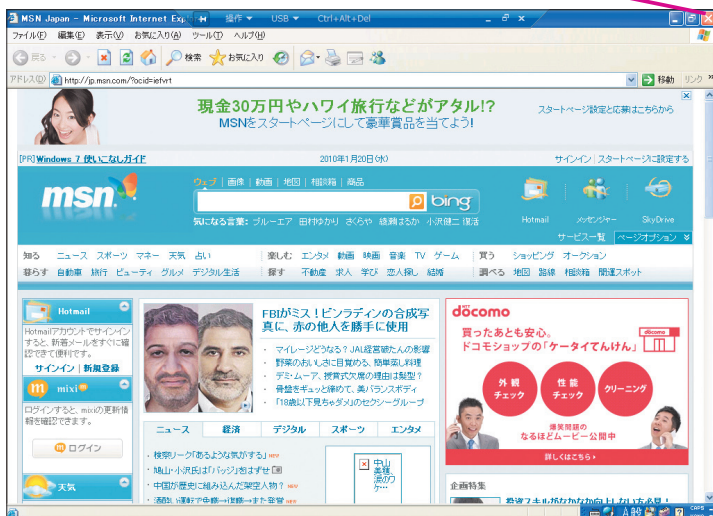
3 Internet Explorerのバージョンを確認する

Internet Explorerのバージョン情報が表示された

❶Internet Explorerのバージョンを確認

❷［OK］をクリック

4 Internet Explorerを終了する

Internet Explorerが終了した

［閉じる］をクリック

Windows XP Modeで印刷をするには

Windows XP Modeでプリンターを利用したい場合は、Windows XP Mode上でプリンターを認識させる必要があります。USB接続のプリンターの場合、パソコンに接続して電源を入れた後、画面上部にあるメニューから［USB］をクリックし、一覧から接続したいプリンターを選択します。Windows XP Modeにプリンターが接続されますので、ドライバをインストールして使えるようにしましょう。このほか、ネットワークでプリンターを共有して印刷したり、統合機能で共有されたポートを手動で指定してプリンターを追加することでもプリンターを使えるようになります。

セキュリティ対策ソフトをインストールしておこう

Windows XP Modeを普段の業務に利用する場合は、Windows XP Modeにもセキュリティ対策が必要になります。忘れずにセキュリティ対策ソフトをインストールしておきましょう。

Point

Windows XPをそのまま使える

Windows XP Modeを利用すると、通常のソフトウェアと同様に、Windows XPのデスクトップ画面をそのままWindows 7上で利用することができます。ファイルを操作したり、設定をすることはもちろんのこと、Windows XPにインストールされているアプリケーションを利用することもできます。Internet Explorer 6など、Windows XPでしか利用できないソフトウェアを利用するのに活用しましょう。

レッスン
5

Windows XPでしか動かないソフトを使うには

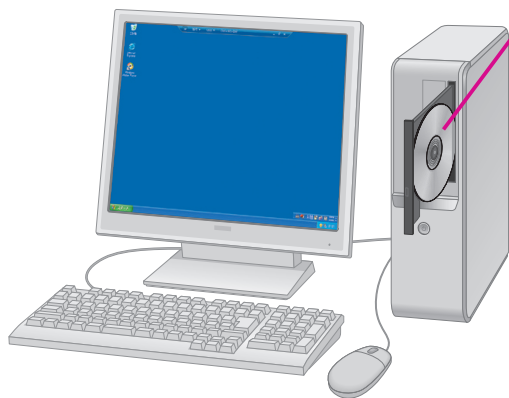
Windows XP Modeへのソフトのインストール

Windows XP Modeで使いたいソフトウェアをインストールしてみましょう。Windows XP Modeはもちろんのこと Windows 7からも使えるようにできます。

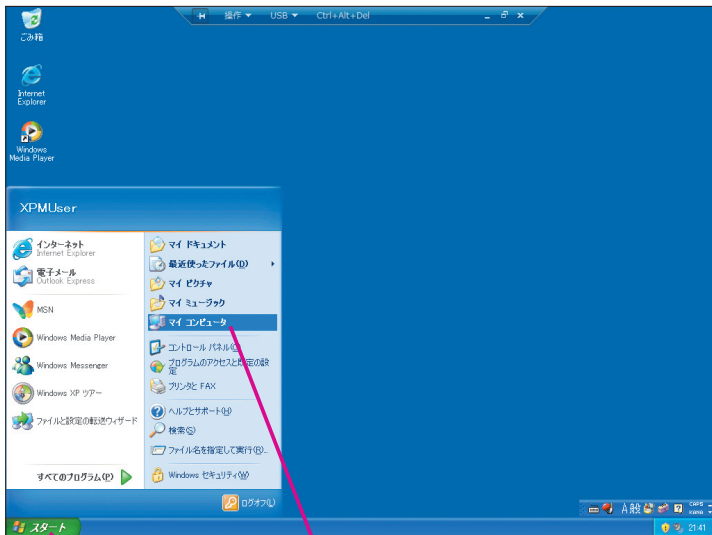
1 Windows XP Modeで使いたいソフトウェアをインストールする

Windows XP Modeを起動しておく

ここでは、Word 2000をインストールする

CD-ROMをセット

Windows 7のドライブからインストールできる

Windows XP Modeでは、Windows 7に搭載されているCD/DVDドライブをそのまま利用することができます。このため、Windows XP Modeにインストールしたいソフトウェアのcdをドライブにセットすれば、そのままインストールすることができます。

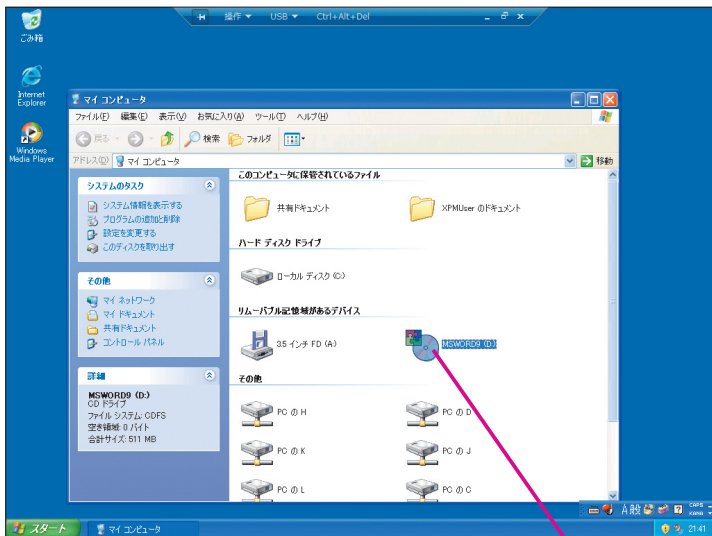
2 ［マイ コンピュータ］を表示する

❶［スタート］をクリック

❷［マイ コンピュータ］をクリック

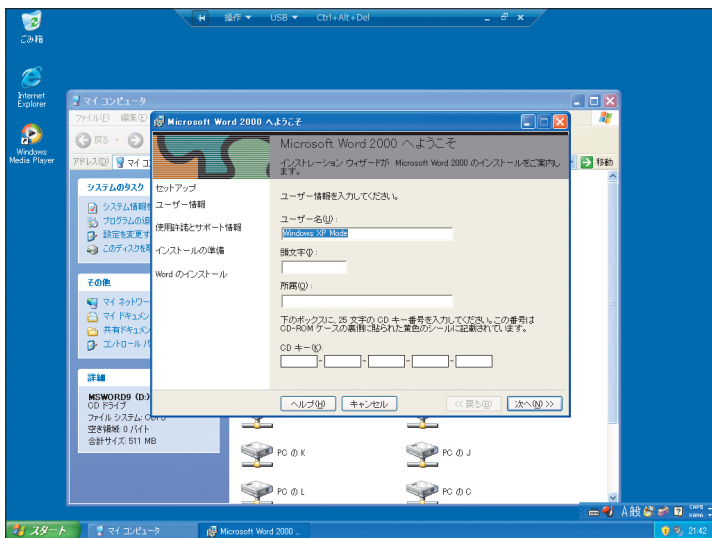
インストール方法はさまざま

ソフトウェアによっては、特定のファイルをフォルダーにコピーするだけでいい場合などもあります。ソフトウェアによってインストール方法が異なりますので、必ず取扱説明書などを参照しながらインストールしましょう。

3 ソフトウェアのインストールを開始する

［マイ コンピュータ］が表示された

CD-ROMのアイコンをダブルクリック

4 ソフトウェアのインストールを続ける

インストレーションウィザードが起動した

画面の指示にしたがって、インストール作業を進める

Windows 7対応のソフトウェアはWindows 7で使おう

Windows XP Modeは、あくまでもWindows XPでしか動作しないソフトウェアを利用するための機能です。使いたいソフトウェアがWindows 7でも動作する場合は、Windows 7にインストールした方が効率的に利用できます。Windows 7に正式に対応していない場合でも、互換モードを利用してインストールしたり、起動できる場合もあります。

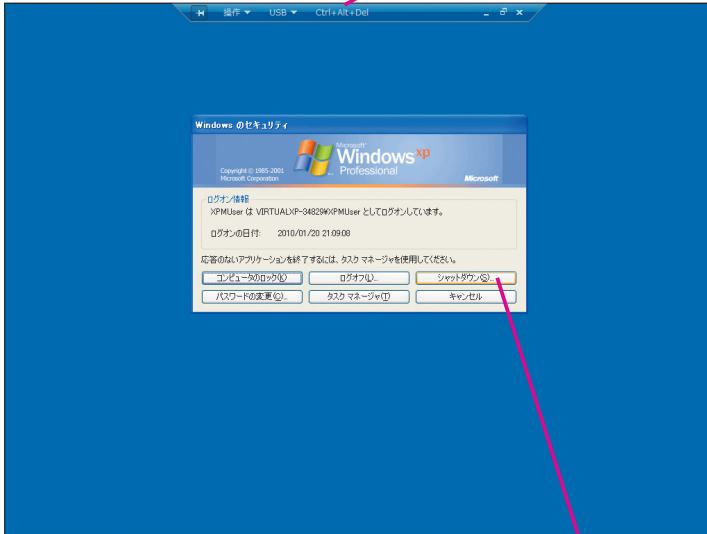
間違った場合は？

手順4でインストールプログラムが起動しなかったときは、手順3でCD-ROMのアイコンを右クリックして開き、「SETUP.EXE」などを起動して手動でインストールを実行します。

次のページに続く

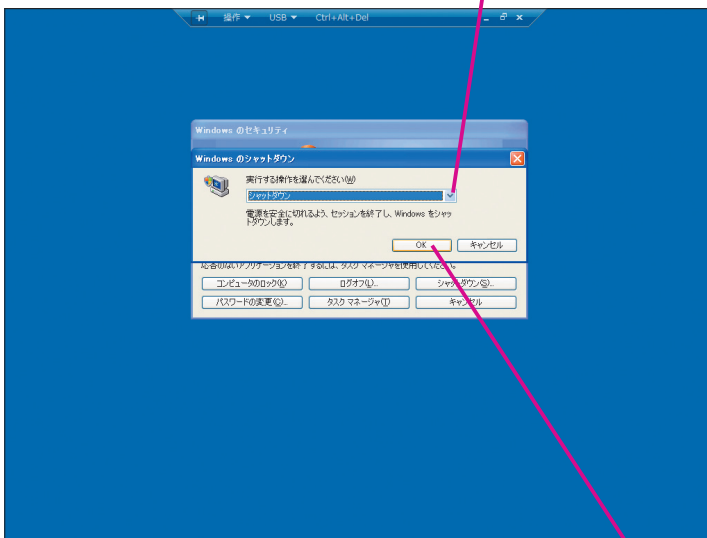
5 [Windowsのシャットダウン］ダイアログボックスを表示する

ソフトウェアがインストールされた

❶ [Ctrl+Alt+Del] をクリック

❷ [シャットダウン] をクリック

6 Windows XP Modeを終了する

[Windowsのシャットダウン] ダイアログボックスが表示された

❶ [シャットダウン] を選択

❷ [OK] をクリック

ログオフしても大丈夫？

Windows 7からWindows XP Modeのソフトウェアを直接起動しようとすると、[Windows XP Modeは、ユーザーがログオンしたまま終了されました] と表示されることがあります。そのままではソフトウェアを起動することができませんので、[続行] をクリックし、自動的にログオフしてからソフトウェアを起動しましょう。ただし、自動的にログオフすると、Windows XP Modeで起動していたソフトウェアが強制的に終了されてしまいます。データを保存していない場合などは、[キャンセル] をクリックし、Windows XP Modeでソフトウェアを安全に終了させてから、もう一度、操作しましょう。

ソフトウェアのアップデートも忘れずに

インストールしたソフトウェアによっては、不具合を修正したり、新機能を追加するためのアップデートプログラムがインターネット上で提供されている場合があります。インストールに利用したCD/DVDが古い場合は、アップデートがあるかどうかを確認し、ある場合は忘れずに適用しておきましょう。

更新プログラムがインストールされる場合もある

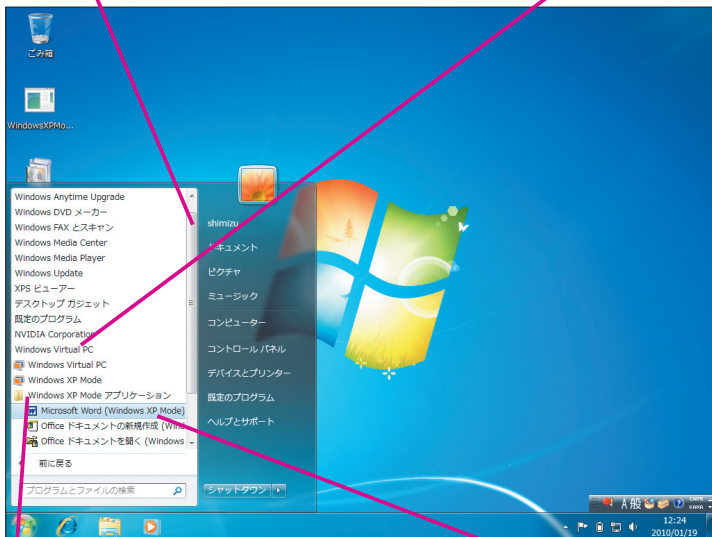
Windows XP用の更新プログラムがダウンロードされている場合は、手順6で更新プログラムをインストールしてからシャットダウンするように設定されます。シャットダウンに時間がかかりますが、インストールしてからシャットダウンしましょう。

起動するソフトウェアを選択する

Windows XP Modeが終了した

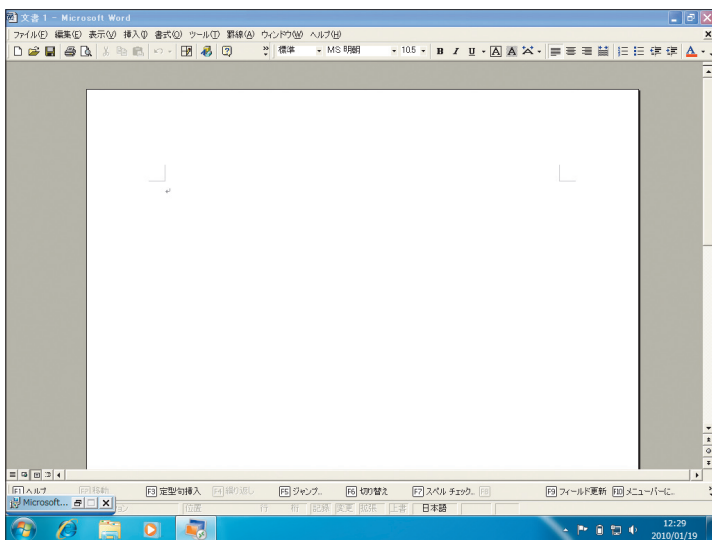
レッスン❸の手順1を参考に、[すべてのプログラム]を表示しておく

❶ここをドラッグして下にスクロール

❷[Windows Virtual PC]をクリック

❸[Windows XP Modeアプリケーション]をクリック

❹起動するプログラムをクリック

ソフトウェアが起動した

Windows 7上でWindows XP Modeにインストールしたソフトウェアを動作させることができる

インストールしたソフトウェアをWindows 7に表示するには

インストールしたソフトウェアがWindows 7のスタートメニューにも表示されるようにするには、そのソフトウェアを起動するためのショートカットが、Windows XP上のAll Usersのスタートメニューに登録されている必要があります。Windows 7に表示されないときは、Windows XPのスタートボタンを右クリックして「開く-All Users」を選択し、表示された「スタートメニューフォルダ」にショートカットを追加しましょう。

間違った場合は?

手順7にインストールしたソフトウェアが表示されないときは、手動での登録が必要です。HINT!を参考に登録しましょう。

Point

2つの起動方法を使い分けよう

Windows XP Modeには、用途によって2つの起動方法があります。1つはWindows XP自体を起動する方法です。ファイル操作や設定などWindows XP自体を使いたいときは、スタートメニューから「Windows XP Mode」を起動します。もう1つはWindows XPにインストールされているソフトウェアを直接起動する方法です。スタートメニューからWindows XP Mode用のソフトウェアとして登録されたプログラムを起動すると、Windows 7上にソフトウェアのウィンドウを直接表示できます。業務用のソフトウェアを使いたいときは、この方法が便利でしょう。

レッスン 6

もっと快適にWindows XP Modeを使うには

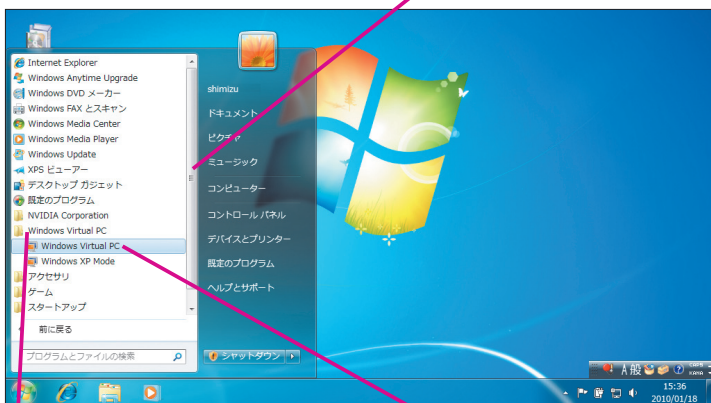
設定の変更

Windows XP Modeをもっと使いやすくしてみましょう。仮想環境に割り当てるメモリ容量などを変更することで、より快適に動作させることができます。

1 Windows Virtual PCを起動する

Windows XP Modeが起動している場合は、レッスン❺の手順5～6を参考に、Windows XP Modeを終了しておく

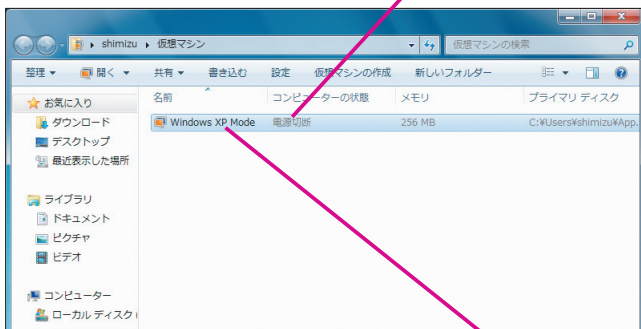
レッスン❸の手順1を参考に、[すべてのプログラム]を表示しておく

❶ここをドラッグして下にスクロール

❷[Windows Virtual PC]をクリック

❸[Windows Virtual PC]をクリック

2 設定を変更する仮想マシンを選択する

Windows Virtual PCが起動した

❶[電源切断]と表示されていることを確認

❷[Windows XP Mode]をクリック

設定にはシャットダウンが必要

Windows XP Modeの設定を変更するには、Windows XP Modeがシャットダウンされている必要があります。ウィンドウを閉じて終了するのではなく、必ずレッスン❺の手順5～6を参考に、シャットダウンしておきましょう。

統合機能ってなに？

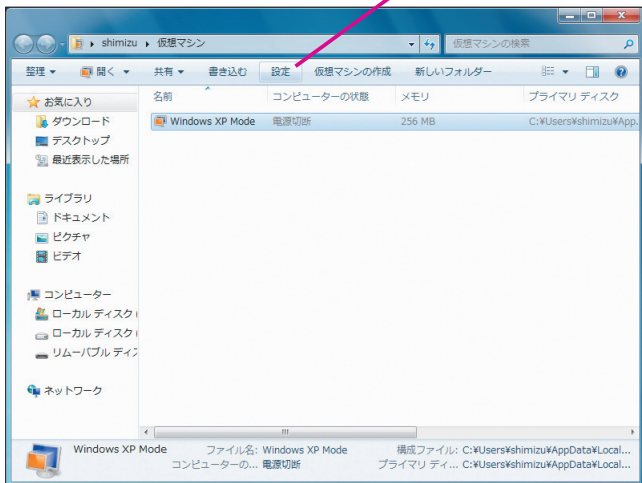
統合機能とは、物理環境のWindows 7と仮想環境のWindows XP Modeの間で、パソコンのハードウェアやソフトウェアを共有するための機能です。データをコピーするためのクリップボードやプリンター、ドライブなどを物理環境と仮想環境との両方で使えるようになります。通常は標準設定のままでかまいませんが、手順4で統合機能をクリックすることで、必要に応じて共有するものを選択することもできます。

実際のハードディスク容量とWindows XP Mode上の容量は異なる

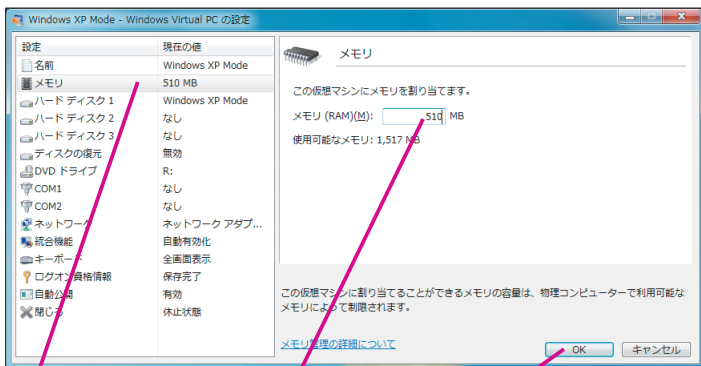
Windows XP Modeでは、必要に応じて容量が変化する可変容量のディスクが割り当てられます。このため、Windows XP Mode上では130GB程度の容量のハードディスクとして認識されますが、実際にはWindows XP Modeが使用する容量しか物理的なハードディスク上の容量を消費していません。

設定の画面を開く

設定を変更する仮想マシンが選択された

[設定]をクリック

仮想メモリの容量を変更する

[Windows Virtual PCの設定]画面が表示された

ここでは割り当てる仮想メモリの容量を変更する

❶［メモリ］をクリック

❷「510」と入力

❸[OK]をクリック

仮想メモリの容量が変更された

同様の手順で仮想ハードディスク容量などを変更できる

ハードディスクも追加できる

Windows XP Modeで利用するハードディスクは後から追加することもできます。手順4で［ハードディスク2］を選択後、［仮想ハードディスクファイル］にチェックマークを付けてから［作成］ボタンをクリックします。作成画面が表示されますので、種類や名前、サイズを選ぶとハードディスクが追加され、次回起動時から利用できます。

どれくらいメモリを割り当てればいいの？

Windows XP Modeで業務用のソフトウェアなどを利用する場合は、1GB程度のメモリがあれば十分です。あまり多く割り当てると、Windows 7が使えるメモリ容量が減ってしまいますので、搭載されているメモリ容量の半分以下を目安に設定しましょう。

間違った場合は?

手順4でメモリ容量を編集できないときは、Windows XPがシャットダウンされていない可能性があります。もう一度、Windows XP Modeを起動して、シャットダウンし直しましょう。

Point

パソコンの性能に合わせて設定しよう

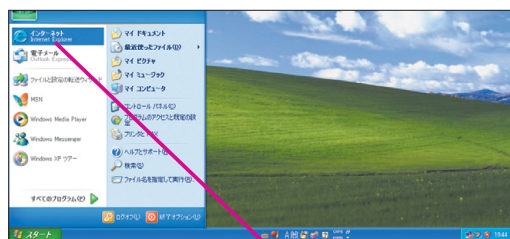
Windows XP Modeで利用される仮想的なハードウェアの構成は後から変更することができます。CPUなどは物理的な構成をそのまま引き継ぐため変更できませんが、メモリ容量やハードディスク容量などを変更することができます。仮想環境も、物理的なパソコンと同じように、より多くのメモリが搭載されている方が快適に動作しますので、メモリの容量に応じて増やしておくと良いでしょう。ただし、あまり多く設定するとWindows 7が使えるメモリ容量が減ってしまいますので、パソコンに搭載されているトータルのメモリ容量を考慮して設定しましょう。

Windows XPの内容をまるごとバックアップしておくには

従来のWindows XPの環境をバックアップするには、Windows XP Modeでも使われているVHD（仮想ハードディスク）形式での保存が便利です。OSやデータを含めたハードディスク全体をまるごとバックアップでき、そのデータを参照することもできます（データの参照には、ソフトウェアアシュアランス契約が必要です）。

VHDファイルを作成する

1 Webブラウザーを起動する

バックアップしたいWindows XPのパソコンを起動し、VHDファイルを保存する外付けハードディスクドライブを接続しておく

❶［スタート］をクリック

❷［インターネット］をクリック

2 Disk2vhdのダウンロードサイトを表示する

Internet Explorerが起動した

Internet Explorerの画面を最大化しておく

▼Disk2vhdのダウンロードサイトを表示する
http://technet.microsoft.com/en-us/sysinternals/ee656415.aspx

❶上のURLを入力

❷Enterキーを押す

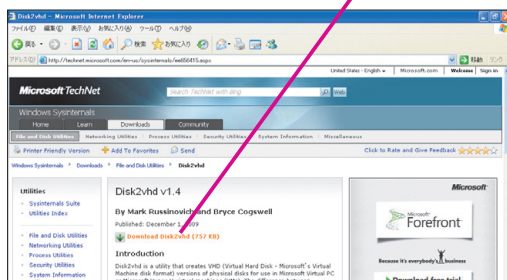
HINT!

バックアップの環境を準備しよう

Windows XPの環境をバックアップするには、保存先として利用するメディアが必要になります。外付けのUSBハードディスクなど、手軽に利用できる大容量のメディアを用意し、あらかじめパソコンに接続しておきましょう。

3 Disk2vhdのダウンロードを開始する

Disk2vhdのダウンロードサイトが表示された

［Download Disk2vhd (757 KB)］をクリック

4 ファイルを保存する

［ファイルのダウンロード］ダイアログボックスが表示された

［保存］をクリック

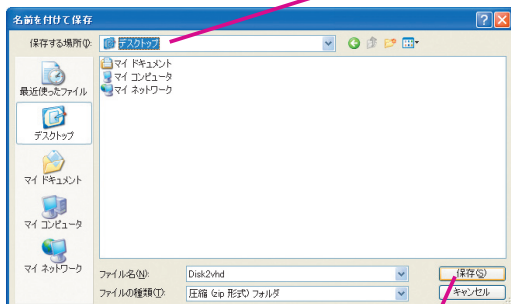
HINT!

Disk2vhdってなに？

Disk2vhdは、物理的なハードディスク上のデータをWindows XP Modeなどで使われているVHD（仮想ハードディスク）形式のファイルへと変換できるソフトウェアです。本来は物理的なパソコンを仮想環境に移行するときに利用しますが、ハードディスクの内容をまるごと保存できるうえ、保存したファイルをWindows 7から手軽に参照できるのでバックアップへの利用にも適しています。

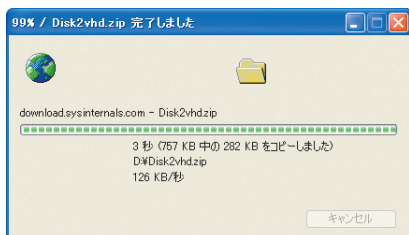
ファイルの保存先を指定する

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示された

❶保存先を指定

❷[保存]をクリック

ファイルのダウンロードを待つ

ダウンロードの進捗状況が表示された

ダウンロードが完了するまでしばらく待つ

ダウンロードが完了した

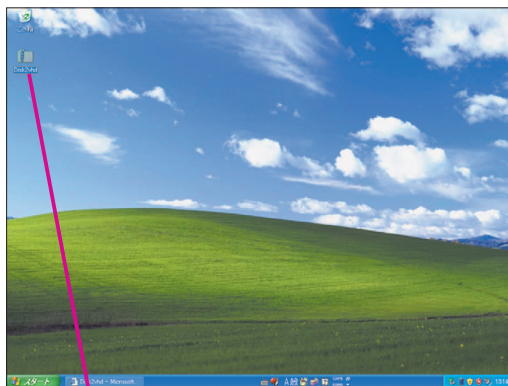
[閉じる]をクリック

HINT!

そのままドラッグしてもいい

ここでは圧縮ファイルをすべて展開していますが、開いたフォルダからドラッグすることでもファイルを取り出すことができます。手順9で表示されたファイルを選択し、デスクトップなどにドラッグすれば展開できます。

圧縮ファイルの内容を表示する

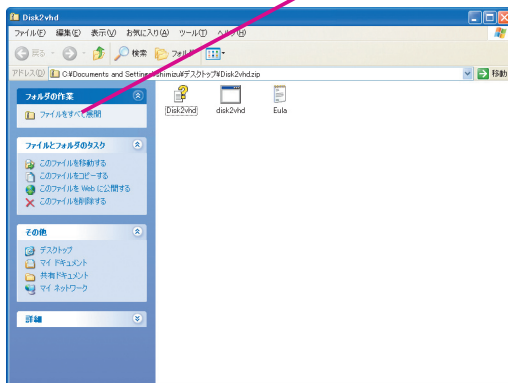
指定した保存先にインストーラーのアイコンが表示された

ダブルクリック

ファイルをすべて展開する

圧縮ファイルの内容が表示された

[ファイルをすべて展開]をクリック

次のページに続く

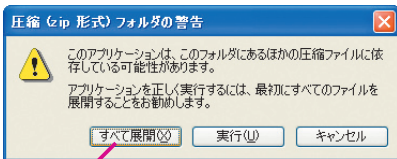
付録

10 ファイルをすべて展開する

[圧縮（zip形式）フォルダの警告]ダイアログボックスが表示された

[すべて展開]をクリック

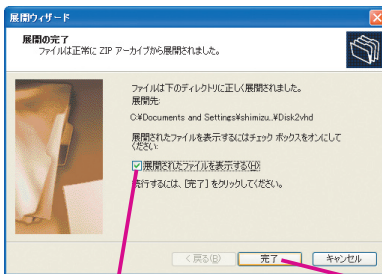
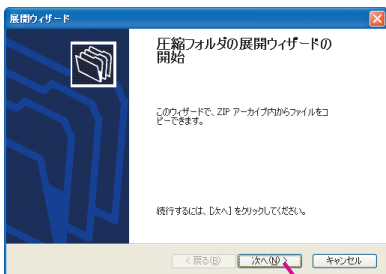
11 展開ウィザードを開始する

展開ウィザードが表示された

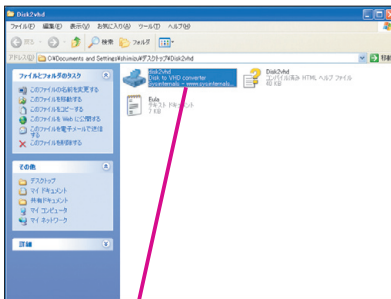
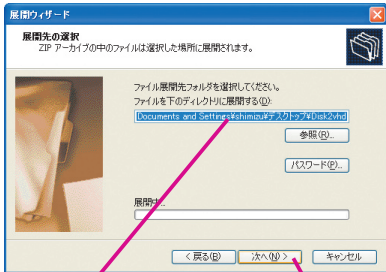
[次へ]をクリック

12 展開先を選択する

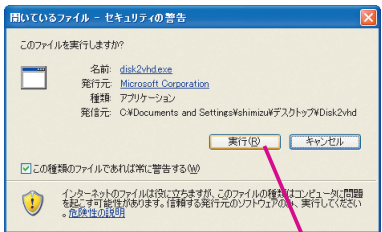
❶展開先を選択　❷[次へ]をクリック

13 展開されたファイルを表示する

ファイルが展開された

❶[展開されたファイルを表示する]にチェックマークを付ける

❷[完了]をクリック

14 Disk2vhdを起動する

展開されたファイルが表示された

[disk2vhd]をダブルクリック

15 セキュリティの確認をする

[セキュリティの警告]ダイアログボックスが表示された

[実行]をクリック

HINT! ドライブはどれを選べば良いの？

手順17には、パソコンに搭載されているドライブのほかに、保存先として接続した外付けのUSBハードディスクなども表示されます。必要なのはWindows XPやデータが保存されているドライブのみとなりますので、余計なドライブを選ばないように注意しましょう。

16 ライセンスに同意する

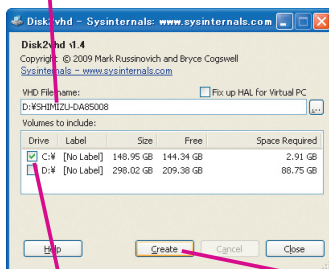
Disk2vhdのライセンス条項が表示された

[Agree]をクリック

17 VHDファイルを作成する

Disk2vhdが起動した

❶保存先を選択

ここではパソコンに接続しておいた外付けハードディスクドライブを選択した

❷バックアップするドライブにチェックマークを付ける

❸［Create］をクリック

HINT! 「Fix up HAL for Virtual PC」ってなに？

手順17の画面に表示されている「Fix up HAL for Virtual PC」は、作成したVHDファイルをWindows Virtual PCなどの仮想化ソフトウェアで起動するために、ハードウェアの構成情報などを事前に変更しておく設定となります。仮想化したWindows XPを起動する場合に必要になりますが、ここではバックアップが目的となりますので、チェックを付ける必要はありません。

HINT! 作成には時間がかかる

パソコンに保存されているデータの容量によっては、VHDファイルの作成に時間がかかる場合があります。数GB程度であれば10～20分程度となりますが、それ以上のデータが保存されている場合は数時間ほどかかる場合もあります。時間に余裕を持って作業をしましょう。

18 VHDファイルが作成されるのを待つ

進捗状況が表示された

完了するまでしばらく待つ

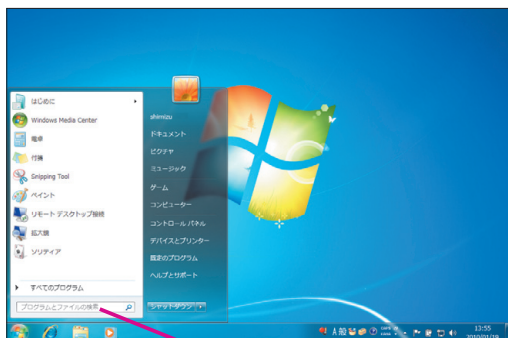
19 VHDファイルが作成された

［Close］をクリック

次のページに続く

VHDファイルを開く

[ディスクの管理] を検索する

VHDファイルを保存した外付けハードディスクドライブを、Windows 7パソコンに接続する

❶[スタート]をクリック

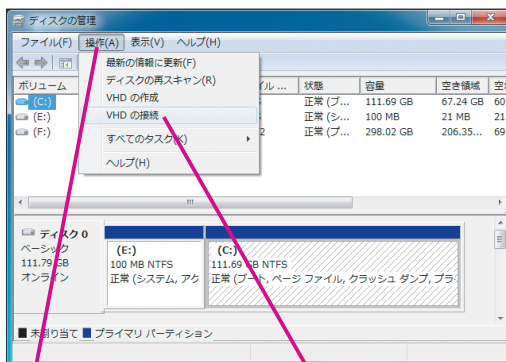
❷「diskmgmt.msc」と入力

[ディスクの管理] 画面を開く

検索結果が表示された

[diskmgmt]をクリック

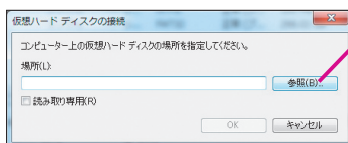
3 [仮想ハードディスクの接続] ダイアログボックスを表示する

[ディスクの管理]画面が表示された

❶[操作]をクリック

❷[VHDの接続]をクリック

4 [仮想ディスクファイルの参照] ダイアログボックスを表示する

[仮想ハードディスクの接続] ダイアログボックスが表示された

[参照] をクリック

5 VHDファイルを選択する

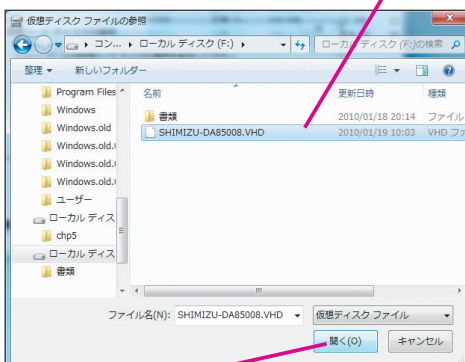
[仮想ディスクファイルの参照] ダイアログボックスが表示された

❶作成したVHDファイルを選択

❷[開く]をクリック

HINT!

コンピューターの管理からも起動できる

ここではファイル名を指定して［ディスクの管理］を起動していますが、コンピューターの管理からも同じ画面を表示することができます。スタートメニューから［コンピューター］を右クリックして［管理］を選びます。表示された画面で［記憶域］にある［ディスクの管理］を選びましょう。

読み取り専用で開くと安心

VHDファイルに大切なデータが保存されているときは、手順6で［読み取り専用］にチェックマークを付けて接続すると安心です。こうすると、接続したドライブの内容を参照したり、ファイルをコピーすることはできても、ファイルを削除することなどができませんので、操作ミスなどから大切なデータを保護することができます。

VHDを切断するには

接続したVHDは、パソコンを再起動すると自動的に切断されます。もしも、手動で切断したいときは、手順1を参考に［ディスクの管理］を表示し、画面中央下に表示されている一覧から、接続したVHDの［ディスクx］（番号は環境によって違います）と記載されている部分を右クリックし、［VHDの切断］を選択します。

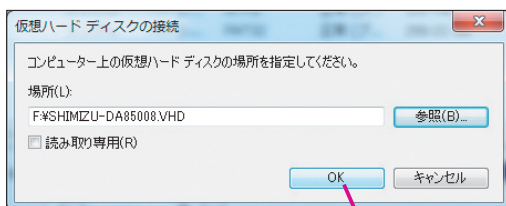
6 VHDファイルを開く

VHDファイルが選択された

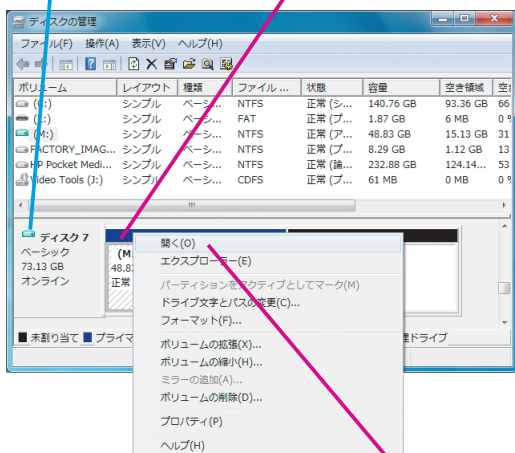
［OK］をクリック

7 VHDファイルの内容を表示する

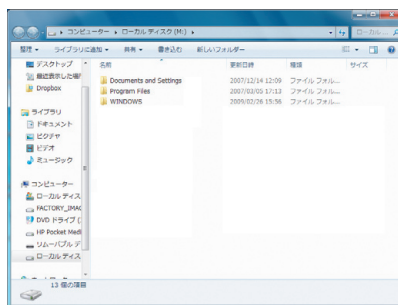
青いアイコンが表示された

❶開きたいディスクで右クリック

❷［開く］をクリック

Windows XP Modeでの利用に注意

手順17で［Fix up HAL for Virtual PC］にチェックマークを付けて作成したWindows XPの仮想ハードディスクファイルは、Windows 7のWindows XP Modeとして読み込んで起動することもできます。ただし、この場合はOSのライセンスに注意する必要があります。Open Valueなどのボリュームライセンスを契約している場合は（ソフトウェアアシュアランス契約が必要）、購入したOSを別の環境に移行することができますが、パソコンにあらかじめインストールされているOSを別の環境に移行するとライセンス契約違反となります。

8 VHDファイルの内容が表示された

Windows 7上で、バックアップしたWindows XPのファイルやフォルダを開くことができるようになった

付録

■著者
清水理史（しみず　まさし）shimizu@shimiz.org
1971年東京都出身。外資系企業のシステム管理者を経て、1997年にフリーライターとして独立。雑誌やWeb媒体を中心にOSやネットワーク、ブロードバンド関連の記事を数多く執筆。『INTERNET Watch』にて､ブロードバンド関連の話題を扱う『イニシャルB』を連載中。おもな著書に『できるWindows 7』『Windows 7完全導入ガイド これ1冊で迷わず使える！ 楽しめる！』『できるパソコンの「困った！」に答える本 2009』『できるWindows XP SP3&SP2対応 基本編完全版』『できるPRO BlackBerry サーバー構築 BlackBerry Enterprise Server 4.1.4J版』『できるポケット＋ BlackBerry Bold』（インプレスジャパン）などがある。

できる Windows 7 Windows XP Mode編 特別版

2010年2月　初版発行
2010年3月　第1版第2刷発行

発行　株式会社インプレスジャパン An Impress Group Company
〒102-0075 東京都千代田区三番町20

編集 ―――――― できるシリーズ編集部
執筆 ―――――― 清水理史
イラスト ―――― 松原ふみこ・福地祐子
シリーズロゴデザイン ― 山岡デザイン事務所
カバーデザイン ―― 株式会社ドリームデザイン
制作 ―――――― 株式会社デジカル
印刷所 ――――― 大日本印刷株式会社

「できるサポート」では、本書に関するお問い合わせにはお答えしておりません。あらかじめご了承ください。

できる Windows 7 Windows XP Mode編

非売品

「できるシリーズ」は、画面で見せる入門書の元祖です。

見開き完結のレッスンを基本とし、レッスン1から順を追って
進めていくことで、楽しみながらパソコンの操作を学べます。
また、レッスンを進めるにしたがって、必要な知識が身に付く構成に
なっています。できるシリーズなら、はじめての人でも安心です。

- オールカラーの大きな画面！ 操作手順がよく見える。
- 詳しい操作手順とポイントで丁寧に解説。
- 操作を間違っても大丈夫！ 対処方法がすぐわかる。
- 手順の横にヒントを掲載。関連知識も身に付く！